

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380674

研究課題名(和文) ジェンダー公正にむけた社会関係資本創出の実証分析ー地域比較調査から

研究課題名(英文) Empirical analysis of social capital toward gender equity from regional survey

研究代表者

杉原 名穂子 (Sugihara, Nahoko)

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授

研究者番号：00251687

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)： ジェンダー公正な社会関係資本(以下SC)をめざし、SCとジェンダー権力構造との関係を都市化の違いに注目して調査検討した。調査地は大都市部(東京都世田谷区)、農村部(和歌山県古座川町)で、先行調査の地方都市(新潟県新潟市)とあわせて比較した。

結果、世田谷区は橋渡し型が多く、「男性は職場」「女性は地域と家庭」という都市型性別分業があらわれていること、新潟市は結束型+橋渡し型が併存し、「男性が町内会・自治会などの地域活動」「女性がケア活動」というジェンダー権力関係が存在すること、古座川町は、地縁・血縁関係によるSCが非常に多く、高齢化とあいまってSCの量に男女差がみられないことがわかった。

研究成果の概要(英文)： This project examined the relationship between social capital (SC) and gender power structure toward gender justice SC policy. The survey focusing on differences in urbanization was conducted and compared between metropolitan area (Setagaya-ku, Tokyo), rural area (Kozagawa-machi, Wakayama prefecture) and local city (Niigata City, Niigata Prefecture, which data was collected from the previous research .)

The results of the investigation are as follows. Setagaya-ku has many bridging SC, where urban type gender division of labor "men as workplace" and "women as family and region" appears. Niigata City has both bonding SC and bridging SC and has traditional gender power relationship that is men as regional association and women as care activities. Kozagawa-machi has many bonding SC. With the aging of society, women in Kozagawa-machi play an important role in community, and there is no difference between women and men in the amount of SC.

研究分野：社会学

キーワード：ジェンダー 社会関係資本 公正 コミュニティ

1. 研究開始当初の背景

社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）については、1990年代、R・パットナムによって光があてられて以降、社会学のみならず、政治学、経済学、社会疫学等、社会科学のさまざまな領域で注目されてきた。日本でも、内閣府が2002年に始めて本格的に調査を実施し、以来、多くの調査研究が行われている。

しかし、ジェンダー研究者は社会関係資本に関しては沈黙するか、あるいは批判を向けることがこれまで多かった。それは社会関係資本の概念がしばしばノスタルジックな社会観を提示することと関係する。パットナムが、社会変化が人々の紐帯を弱化させた、女性の市場労働への参加が社会関係資本を減少させた、と議論したとき（Putnam1995）、結局、社会関係資本の創出という政策は、女性を伝統的な役割に結びつけるだけではないか、という警戒を呼び起こしたのである。社会関係資本の醸成が社会にポジティブな影響を与えるというならば、それはジェンダー公正と結びつく方向でなければならない。

以上の問題関心にもとづき、前回、科学研究費の助成をうけ、新潟市において、ジェンダー論の視点をいれた社会関係資本の調査を実施した。男性は公的領域、女性は私的領域、あるいは資本主義や市民社会と、家族や家父長制という二重のシステムを論じるのが、ジェンダー論の重要で複雑な社会科学への貢献である。すなわち、社会関係資本研究にジェンダーの視点を導入する場合、紐帯の量や型だけでなく、この二重のシステムに着目する必要がある。そのため、新潟市の調査では女性のケア活動も質問項目にとりいれ調査票を作成した。その結果、社会関係資本（以下SC）の中で、構造型（ネットワークや活動）については、男性が地縁活動、女性がケア活動、とそれぞれジェンダー秩序を反映したSCを多く所持していること、そして、市民意識や政治意識との関係でみると、SCは

ジェンダー平等な意識に関連を示さないことが明らかになった。

この結果をみると、社会関係資本の量を増やすために地域や社会のつながりを密にしようという政策は、それがジェンダーブラインドであるならば、男女不平等の再生産につながるという危惧はある程度妥当性をもった批判だといえる。

新潟市調査では、特に、男性での結束型SCの重要性が浮かび上がった。日本の場合、結束型SCがさまざまな資本のベースにあるようにみえる。結束型は同類集団になりやすく、女性を排除する傾向も強い。ただし、新潟市という地方都市では、まだ地縁関係が残っており、そのため結束型SCが強調されている可能性がある。そのため、より個人化がすすんでいると思われる大都市、逆により結束的な関係が強いと考えられる農村部で類似の調査を行い、結束型および橋渡し型SCとジェンダーの再生産の関連について検討することを研究課題とした。

2. 研究の目的

大都市部および農村部を対象に質問紙調査を実施し、先行の新潟市調査とあわせて以下の論点について分析を行う。

(1) 結合型、橋渡し型がもつ意味が男女で、かつ都市規模によって異なるか。その分布の違いを認知的SC、構造的SC、結束型SC、橋渡し型SCのそれぞれについて把握する。

(2) 社会関係資本の指標と、政治意識、寛容性、ジェンダー意識、政治行動などとの関連をみる。

(3) 伝統的な性役割から蓄積される社会関係資本を、女性は他の資本に転換できるか。その条件は何か。ケア型の社会関係資本は、男性では橋渡し型に性質に近いが、女性では地縁的な結束型に近いという結果が新潟市の調査より得られた。地域における女性の活動の重要性に疑問の余地はないとして、そこからジェンダー関係の変革にむかう可能性を

検討する。

3. 研究の方法

首都圏、地方都市、町村部の事例として、東京都世田谷区、新潟県新潟市、和歌山県東牟婁郡古座川町の3つの地域の住民を対象に行った量的調査のデータを用いる。新潟市については2012年3月-5月におこなった前回科研のデータを用いるが、新たに今回、世田谷区と古座川町について2015年3-5月に、住民基本台帳より抽出した対象者に調査票を郵送で配布・回収する形式で行った調査データをもちいる。主な調査概要は次の通りである。

世田谷区:2段階抽出法により抽出した2,089人(20歳~84歳の男女)。有効回収票は576(回収率27.6%)。古座川町:系統抽出法により抽出した777人(20歳~84歳の男女)。有効回収率は299(回収率38.5%)。なお、新潟市:系統抽出法により抽出した3,070人(20歳~89歳の男女)。有効回収票は1,315(回収率42.8%)。

社会関係資本の操作的定義は次の通りである。ネットワークを問う構造的SCとして地域での活動、日頃親しくしている友人数を問う項目、規範的要素を問う認知的SCとして信頼感を指標とする。それぞれ、地縁・血縁に関するもの、職場やボランティア活動に関するもの、個人的な友人や趣味に関するもの、子育てやケア活動に関するものをおいた。

4. 研究成果

(1)世田谷区と新潟市では地縁・血縁関係に関して正反対の結果が示されている。世田谷区では総じて女性に社会関係資本が多く、地縁活動、ボランティア活動、ケア活動の他、インフォーマルな個人的ネットワークも豊かである。これに対し、新潟市では、男性が豊かな地縁・血縁ネットワークを築いている。

親戚や職場ネットワークは男性、ケアやインフォーマルなネットワークは女性、という性別分業を反映した特徴を示している。古座川町はほとんど性別による違いがあらわれないのが特徴である。

SCの量に関しては、地縁・血縁SCについては都市度と反比例している。古座川町できわめて多く、世田谷区で少ない。その間に位置するのが新潟市である。古座川町は地縁・血縁関係が根強だけでなく、それと職場やNPO、個人的なつながりとの相関が非常に強く、地縁的つながりをベースにさまざまな関係性が営まれている様子がうかがえる。他の地域と異なり男性においてケア的つながりが豊富なのも、地縁的な関係性の中に組み込まれたネットワークとケア的な活動が関連しているからであろう。都市部と異なる町村部の特徴がここにあらわれている。

(2)各地域において社会関係資本が寛容性と関係している。世田谷区と新潟市では男女とも政治や社会問題への関心も高めており、多くの活動に参加し友人ネットワークを広くもつことは、多様で寛容な市民社会を築く上では効果的といえる。古座川町に関しては他の二地域のような多くの相関関係を示していない。

ただし、性役割意識に関してSCが関連を見せることはほぼないといってよい。これは、人々のネットワーク形成や活動自体、社会のジェンダー編成に沿って行われるからであろう。子供を通じたつながりは特に女性に多く所有される資本だが、その資本が女性にいかなる利益をもたらすか検討がやはり必要だといえる。

今回の調査でみると、結束型に分類できる地縁・血縁SCが多くの項目で関連を示している。特に、新潟市の男女、世田谷区の女性では、このSCを多くもっていることが市民意識のみならず、満足感や孤独感の解消と相関をみせる。日本社会では結束型SCも重要

な資本であることがここからも指摘できる。

(3)地域がもともと所有している社会関係資本のタイプが異なるため、ジェンダーの権力関係にも違いがみられる。

1) 世田谷区：橋渡し型が多い地域（地縁血縁が弱い）

地付き層がすくなく、「男性は職場」「女性は地域と家庭」という性別分業が他地域にくらべてあらわれている。男性は職場関係の資本は多いが地域との関わりが薄く、女性が地域活動の中心的な担い手となっている。男性の量的な SC、すなわち地域への関わりが必要となろう。

2) 新潟市：結束型 + 橋渡し型が併存する地域（地縁血縁が比較的強い）

比較的地縁・血縁関係が残っており、「男性が町内会・自治会などの地域活動」「女性が子供やケア活動」という伝統的な性別分業がみられる。社会関係資本は女性にとっても重要な資本であるが、地域活動の活性化という視点だけでは地域でのジェンダー間の権力関係が見えないおそれがある。社会関係資本の量的創出だけでなく、地域社会における女性の発言力や意思決定過程への参与について積極的に援助する必要がある。

3) 古座川町：結束型が多い地域（地縁・血縁が強い）

地域の絆に関してはもっとも強い。多くの活動やネットワークが地縁・血縁関係を強く結びついていること、SCの量については男女差があまりみられないのも特徴である。女性を中心とした農業組合法人が成果を出すなど、社会関係資本の豊かさが生かされている地域であるが、結束型だけでなく橋渡し型の社会関係資本をいかに組み合わせていくかも求められる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計3件)

杉原名穂子「ジェンダーと社会関係資本における地域特性 三地域の比較調査から」『人文科学研究』査読無、139号、1-20頁、2016年。

原珠里・西山未真「女性農業経営主の就農経緯と経営の特徴に関する試論」『農村研究』120号、査読有、1-14頁、2014年。

杉原名穂子「母親の社会関係資本と教育意欲 地域間比較調査から」『人文科学研究』査読無、135号、21-46頁、2014年。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉原 名穂子 (SUGIHARA, Nahoko)

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
研究者番号：00251687

(2) 研究分担者

原 珠里 (HARA Juri)

東京農業大学・国際食料情報学部・教授
研究者番号：30355466